



ようこそ京都舞鶴港へ

[Vol.5]

1年ぶりに韓国航路再開

舞鶴港振興会は、京都舞鶴港の利用促進を図るとともに、京都舞鶴港を核とした産業振興、地域振興を実現するために活動しています。

平成20年4月から休止していた、舞鶴・韓国定期コンテナ航路が約1年ぶりに再開され、去る3月4日にその第一船が京都舞鶴港に入港しました。

この航路は、世界有数のハブ港である韓国釜山港と京都舞鶴港を直接結ぶほか、釜山港を經由して中国・東南アジア・北米・欧州など世界各地との貿易が可能です。

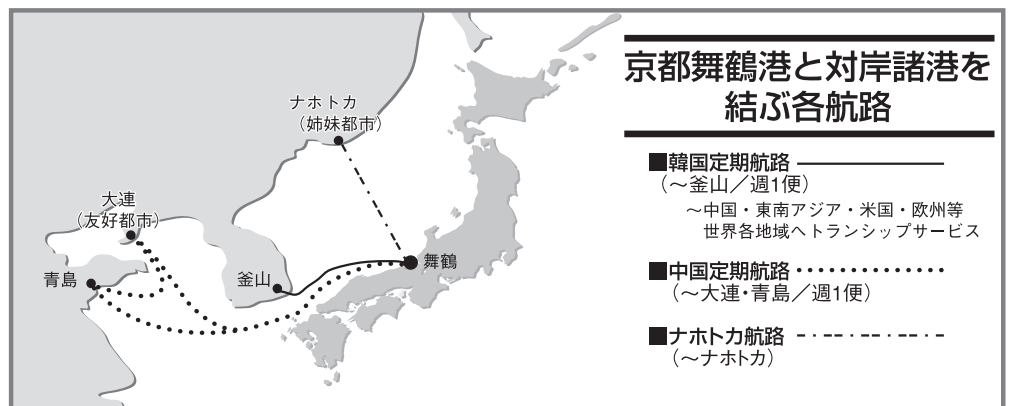
本船の入港に際し、舞鶴港振興会では他団体の

協力のもと、入港歓迎式と祝賀会を開催しました。当日は、早朝にも関わらず、企業の皆様をはじめ約60名の関係者の方々にご出席いただき、航行の安全とさらなる港の発展を祈念しました。

1. 運航船社：興亜海運(株)
2. 日本総代理店：三栄海運(株)
3. スケジュール：釜山(火)－舞鶴(水)－釜山(月)



小雨の中おこなわれたテープカット



新たな農商工連携の取組として 「サル対策を考えるシンポジウム」を開催!

会場満杯の参加者からさまざまな声を聞く!

舞鶴工業集積協議会(会長:松浦盈雅 事務局:舞鶴商工会議所)が2月21日に当所ホールにて「サル対策を考えるシンポジウム」を開催しました。

これは猿検知通報システム「猿発見伝」の実証実験(大波上地区・上佐波賀地区)を機に、当該機器を含めて農家の方に猿による被害を食い止めるのはどうすべきかを検討してもらおうと、JA舞鶴東支店などによる実行委員会組織を作り実施しました。

参加者は150名程度で見込んでいましたが、当日は210名もの参加があり、市内農村部への深刻な被害と関心が高いことを伺わせました。

シンポジウムは猿による被害状況や実態等についての基調報告のあと、各地域や猟友会の取組みの発表と会場からの意見を聞きました。また、会場には「猿発見伝」やエアガン、吹き矢などの展示もおこない、参加者からその所有者へ直接問い合わせできるように試みました。

事前のアンケート調査を含め大半の意見は“駆除”という意見でありましたが、松浦会長はまとめとして、「全部殺して済むという話ではないのでいろいろな意見をまとめたい」とし、今回のシンポジウムで出た意見や終了後のアンケートをまとめ行政機関へ提供することとしました。

協議会としては、今後、「猿発見伝」の更なる改良と新たな設置について弾みがつくものと考えたと共に、これからも“工”という立場で“農”の支援を検討していきます。



猿発見伝の展示風景



講演会風景